

## 平成 22 年度第 2 回氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 平成 22 年 8 月 3 日 (火)
- 2 開催場所 市役所 5 階第 2、第 3 委員会室
- 3 会議時間 午後 4 時～午後 5 時 05 分
- 4 出席委員 上野隆子、川上修、西塚友彦（七尾雅周委員代理）、澤井和一（姫野貞夫委員代理）、前田利寛、屋敷夕貴、山岸教男、山下金次郎、加藤知道（佐藤泰樹委員代理）、松原敏雄、鳥内雅弘、小堀正夫、田中英雄、嵩尾憲昭、釣賀節子
- 5 欠席委員 村江省三、森本太郎、藪田雅彦
- 6 市出席者 堂故茂（市長）、棚瀬佳明（副市長）、前辻秋男（教育長）、甲井勇紀夫（企画広報室長）、金谷正和（総務部長）、東海慎一（市民部長）、江添良春（建設部長）、川田優（産業部長）、山崎外美雄（教育委員会事務局理事）、有島良信（消防長）、濱井博文（総務課長）、廣瀬昌人（財務課長）、七田克行（総務課主幹）、草山利彦（財務課主幹）ほか
- 7 傍聴者 市議会議員 1 名
- 8 案件  
(1) 配付資料の説明  
(2) 質疑応答、意見交換

### <協議資料>

- 資料 1 氷見市集中改革プランの総括について
- 資料 2 資料 【別表 1】平成 19～21 年度一般会計収支  
【別表 2】職員数の推移  
【別表 3】債務総額の推移  
【別表 4】集中改革プランに掲げる具体的な取組状況

### 9 会議録

発言内容	
会長	時間になりましたので、ただいまから 22 年度第 2 回の氷見市行政改革推進市民懇話会を開催したいと思います。大変暑い日が続いておりまして、後期高齢者の私はだいぶばててきましたけれども、市長さんはお祭りで踊られて

---

元気で何よりです。

本日の会議はだいたい一時間ほど予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。

初めに新しい委員さんのご紹介をいたします。氷見市金融協会の会長さんが交代されたということで、民間企業経営者等代表委員の浦野さんに代わりまして、松原さんが新任されました。よろしくお願ひいたします。

本日、七尾委員の代理として西塚さんに、姫野委員の代理として澤井さんに、佐藤委員の代理として加藤さんにご出席をいただいております。

村江委員、森本委員、薮田委員につきましては、本日都合により欠席と承っております。

最近は、地方を取り巻く環境といいますか、政権交代があつて大変いろいろ制度等が変わるとか、あるいは先の選挙があつて大変な状況が続いております。

私どもにしてみたら、どんなに立派な言葉よりも 1 つの実行を、国民が喜ぶ施策をやってほしいと思うわけですけど、なかなか進まないというのが現状でございます。

国よりも地方の方が非常に積極的に時代に即応しながら、いろいろ頑張っているんじゃないかなと考えております。氷見市にとりましても大変厳しい財政状況が続いておりますが、今後とも行財政の改革につきまして、市民と市といっしょになって頑張っていただいて、住みよい氷見市になればいいなと思います。

それでは、最初に市長さんの方からあいさつをお願いしたいと思います。

市長

---

大変暑い日が続いておりますが、委員の皆様には大変ご多忙のところご出席いただきまして、大変ありがとうございます。

皆様方に大変ご心配いただきまして、計画段階から係わっていただいて、平成 19 年度から昨年度までの 3 年間にわたり実施いたしました氷見市集中改革プランについて、本日はそのご報告、説明させていただきたいと思います。

この間の改革については、歯を食いしばって頑張ったわけですが、残念ながら、國の方の三位一体の改革、途中経過で何度も申し上げましたが、理屈を超えて理不尽とまで言えるぐらいの交付税の大幅な減額によりまして、大変困難な改革になったわけであります。

その後、交付税につきましては、国に全国市長会などをあげまして強く働きかけをしてきております。また、政権交代もあり、昨年からは地域主権改革のもと、ようやく交付税のあり方について、元に考え方が戻ったように思います。そして、今年度の交付税決定が 7 月にあったわけでありますが、おかげさまをもちまして、大幅に予算を上回る額を確保できました。しかも、國の方では、来年に向けていろんな諸経費を 1 割減とかいうことでありますが、交付税については現状を維持すると、そういう方向を打ち出していく

---

す。

国全体の財政について、大変心配される状況でありますと、交付税が単に確保されるからといって楽観はできないわけですが、とにかく地方の財政、私たちの財政の観点から見ると、安堵した感を持っています。

それから、この間の 19 年度から 21 年度までの改革期間については、目標としていたことだけでなく、市民病院の公設民営化、あるいは行財政のスリム化といったことについて、この数値目標だけでなく、将来にわたって氷見市がやっていけるという、そういう改革も実行できたんじゃないかと思っています。

本日の案件であります前プランの総括は、平成 21 年度の決算を踏まえた最終的な総括であります。いわゆるこの間の実施結果の報告ということになるわけでありますが、ご存知のように、公設民営化、病院の公設民営化は進められたんですが、その後の後始末、それから過去の償還金がここ数年でピークを迎えることなどを考えて、引き続き改革プラン を進めようとしたしております。皆さんにお諮りしたところでございます。この前プランは、プラン に引き継がれていくわけであります。

そういう点からして、今日は過去の総括ということになるわけでありますと、これから氷見市の行政に大きく結びついていくわけでありますので、どうか委員の皆様方には、今日は総括という意味を含めて、からの氷見市ということについても忌憚のないご意見をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

---

会長 ありがとうございました。それでは、早速協議案件に入りたいと思いますが、本日の議事録につきましては、これまでの会議と同じく、要旨を実名を伏せて公表したいと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは、協議資料を一括して、事務局から説明させます。

---

総務課長 (協議資料の説明)

---

会長 ただいまの説明に対する質問、ご意見がありましたら、順次、発言をお願いしたいと思います。

総務部長 追加してご説明させていただきたいことがございます。

総務課長の方から実質公債費比率について未達成であったということでございました。確かに私ども、いわゆる債務残高と言いますか、借金残高を毎年かなりのペースで減額しているんでございますが、どうしても新たな借金が出ていることや、それから算式上、標準財政規模と言いまして、総務省が示している数字がございまして、それを分母にして公債費等を割り込んでいく格好になります。ただここ数年、例えば交付税が減額されたり等々しており、分母が減ってきておりまして、逆に相対的に、分子がかなり減ってきてるにもかかわらず、分母が小さくなっているもんですから、率が相対的に上がっていると。一生懸命頑張っているんですが、率がどうしても下がって

	こないということでございます。国とか県は、毎年、公債費残高、借金残高が増えてきているんですが、氷見市は毎年、毎年かなりのペースで減らしております。ただどうしても、分子分母、計算式の関係でなかなか数字の達成が困難であったということを追加的にご説明させていただきたいと思います。
会長	何かご質問、意見ありませんか。
委員	意見というよりも私が認識していないということで教えていただきたいんですけども、報告の1については、19、20、21という形で数字がお示しされているんですが、報告の2、3については、平成17年を元にして、数字が出てきて比べているんですね。元になる部分が19のところと17のところあるのは、どうして違ったのかなと。何か理由があったのかなと。ちょっと分からなかったので、教えていただければと思います。
総務課長	平成17のところと平成19のところがあるということですが、国の方では当初、集中改革プランについては、平成17年度から作れということだったと記憶しております。当時、私ども行財政健全化緊急プログラムということで平成15年度から18年度の4年間分についての計画を持っておりました。その計画に、国が示している18年度が入っているものですから、19年度以降のものを使った部分がございます。
委員	また人員のところでございますけれども、国の方では当時、平成17年度から、たしか定員適正化計画を作りなさいよという言い方をしていたと思います。国が言われている定員適正化計画は、平成17年度を起点としているわけですから、定員の分は原則的に、平成17年度からということで整理している状況でございます。
委員	当初、この計画を示していただいた時に、どうやって達成するのかなと心配していたんですが、大変努力なさって、よく達成してこられたなと思います。この後もしばらくこういう状態が続くんでしょうけども、この調子で頑張って参りたいなと思います。
委員	この計画を実際にやってこられて、1億2,400万円の改善が図られたということで、非常によかったと思います。関係者のご努力だと思いますが、今後のことを考えた時に、人口がこの5年間で2,495人ですか、減っているわけですけども、人口の問題とかあるいは、氷見市の例えれば今後、出荷高が今後、どう推移するとか、あるいは漁業の生産高、観光客の数、売り上げの数の推移など、そういう統計がとれるかどうかがあれなんですけども。あるいは事業所の数だとか、事業の創業者数、今後、そういったような項目についても、取り入れて、そういう中から目標を設定することも私は難しいことかなと思いますけども、やはり人口を増やすということで、事業所の数、あるいは地元の中で創業者をどう増やすかという、起業家精神を持った人を地元も若い人達を、若くなくてもいいんですけども、事業をやろうとしている人を支援していくとか、支援しなくてもいいですから、見守っていくとかです

	ね、声をかけながらの支援とかですね。どういう格好でもいいんですけども、創業者数が出てくる格好で、市が、例えばこの地域がそういう地域であればいいんですけども、そういったことについても、市の行政に直結しているわけではないんですけども、地域というものをうまいことリードしていく大きな役割が市の職務だと思いますけどもね。そういったことについても、考えていただきたいと思います。
委員	分母も分子も主体性の乏しい中で変動するという、この辺の問題ですが、動かない自分というものを 1 つの仮説として持っていると。そして、ここで分子が無理と、あるいはここで分母が動く可能性があると、みたいな何かこう持っている方が基準になっていいなとそんな感じがしました。
委員	財政、どこも苦しい中ですが、この 3 年間でかなり改革が進んでいるなという印象を受けました。特に財政については、どこの自治体も苦しいんですけども、1 億ほどのマイナスにはなっているんですが、ほぼ単年度収支がとれている状況になってきたことが、大変関係者の努力のおかげだなと思っています。特に 5 項目の成果については、大変自慢できるような取組みじゃないかなというふうに思っております。
	また、公共施設の再編とか、民間委託とか大変だったと思いますが、着実に実績をあげていることは、本当に頭の下がる思いでございます。この改革をぜひ、改革プラン の方に引き続いていっていただきたいと思います。
	それから、特に氷見市については、地元経済を活気づけるような施策を引き続き取り組んでいただければなあと。地元が元気になれば、経済も活気づくと考えておりますので、ひとつその点もご協力いただければなと思います。
委員	3 年間の改革プラン、皆さんのお話にも出てましたように、厳しい目標に対して、かなりの達成レベルになられたと思うんですが、その中で例えば、職員数の推移がかなりスリム化されたと思うんですが、その辺が数字上の達成とは別に、いろいろ実際にサービスなり、管理面で問題が出ているんじゃないかなと思うんですが、そういう部分、多少、正規職員以外の方を活用されているという話もあるんですが、今、どの辺が課題というか、今後の体制を進めていくに当たって、何か問題があるとか、もう少しメリハリをつけていった方がいいとかあるんでしょうかと思ってみておりました。
	私どもも、厳しい厳しい売り上げとかがあれば、すぐにスリム化するかといって、なかなかうまく進まない部分もあるもんですから、実際、行政はどんなふうに考えておられるか。もし、その辺のお考えなり、実務上のお話があれば、お伺いしたいと思います。
総務部長	かなりスリムにしたところでございます。まず、今回、職員数がかなり減ったというのは、市民病院の職員が 300 数十人おいでになったのがそっくりになくなつたというのが 1 つございます。ただ、その中でいわゆる事務部門、給食とか労務部門については、そのままそっくり氷見市の方で引き取っ

た形になっております。その部分で約30人ほど、市の中で増になっております。減らしておりますのは、まず公務員でございますので、生首は切れないということなんで、基本的には退職不補充という形で減らさせていただいております。どの部門で減っているかと申しますと、どうしても市役所の中でも庶務を担当している部門を臨時とか嘱託の方でやらせていただくようにしております。どうしても、政策に係わる部門については、正規職員でないとやっていけませんので、いわゆる定型的な仕事についてはできるだけ臨時の方、嘱託の方をやらせていただいております。加えて、サービスが下がらない程度に市役所の窓口にもかなり臨時の方を配置させていただいております。窓口は臨時になっておりますが、問題が起きたらいつでも、後方部隊といいますか正規職員が対応できるような形でやらせていただいております。

今後もどうしてもそういう形で進めざるを得ないと思っております。ただ、市民サービスの低下をきたすということだけは、絶対避けたいと思っておりますので、そこら辺を十分注意しながら、今後もある程度の職員の削減を進めていかなければならぬと考えております。

---

委員 はい、ありがとうございました。よく分かりました。

委員 ご努力、大変だったと思います。今のお話でもありましたが、臨時職員というのは、数年でどれくらい数が推移しているのか。それと、サービスのことをおっしゃいましたけども、児童の虐待や老人の孤独死というものが、そういうサービスの中からなるべく漏れないように。そういうことで地区社協とかが、地域が活性化するために皆さん、頑張っているので、協力しながら、老人も子どもも幸せになれるようにしていただきたいと思います。

---

総務課長 臨時職員の推移を申し上げます。平成17年4月1日現在、嘱託、臨職は合わせて65人おられました。平成22年4月1日、今年の4月1日現在は、全部で77人でございます。

数字的にはそんなに、12人しか増えていないように見えますが、平成17年4月1日の一般事務の臨時職員は5人だったんですが、平成22年4月1日では24人ということで、19人ぐらいの増でございます。今ほど総務部長が申しましたとおり、庶務の方を中心にして、臨時職員にお願いしていったという経過がこちらに出ております。

一方、保育士なんですが、氷見市では保育所の統廃合・民営化を進めいく中で、平成17年4月1日現在、臨時保育士が17人おられました。それがだんだん、そういうものを進めていく中で、22年4月1日には7人ということで、そちらの方では10ということで大きく減になっています。そういうような数字の推移でございます。

また、サービスといった面で、児童虐待、老人虐待、それについてはそれぞれのところに専門の職員を配置しておりますし、当然、地域の皆様方からもそういう情報が一番大事だと思っていますので、地区社協の皆様方の今

	後ますますのご協力をお願いしながら、できるだけ対応して参りたいと思っています。
委員	3ヵ年につきましては、大変ご努力をいたいたしたことだと思いますが、希望でありますけども、削減という文字が消えるようにしていただきたいと思います。
委員	歳入と歳出の件につきましては、努力されているんですけども、資料の別表4の具体的な取組状況の民間委託の推進状況とかですが、実施又は一部実施とかになっているものもありますが、検討になったまま3年あるのは、どういうことか教えていただきたいと思います。
総務課長	例えば、老人休養ホーム寿養荘のあり方とございますが、これについては、「大規模修繕が必要になった時には廃止を含めて検討」という中で、当然、平成19年度に大規模修繕が必要になった時には何とかしなくてはいけないと検討していたわけですが、たまたま20年度、21年度には大規模修繕があえて必要でないという状況にあった中で、引き続き検討という形になったわけでございます。
	また、就業改善センターのあり方であがっていますが、グリーン会館でございますが、公文書を保管していますが、別の問題がございまして、国の補助金をいただいて建てた施設でございます。その国との調整を未だやっている最中でございます。補助金をいただいて建てているもんですから、それを単純にどっかにやるとか、民間に売却するとかそういう話はなかなか難しいところがございまして、その調整が未だについていないという状況で、検討、検討という形であがっています。これは民間委託でなくして、土地・建物の売却という話ですが、等々それぞれ個別の理由がございまして、引き続き検討という状況にあります。
委員	先ほどから職員の減について、いろいろありましたけれども、病院事業会計の335人がいなくなったということで、まあ409名の減ですけども、一般的の部門で約50人ほど職員が少なくなったわけですが、例えば、私は観光事業をしておりますが、市政のピークとか年度末とかだろうと思いますが、その時の対応はどのようなことを、例えば臨時職員を増やしたり、アルバイトを増やしたりしているのか。それともそのピークに合わせて職員を採用していくらっしゃるのかということを質問したいんです。
総務部長	当然、ピークに揃えて職員がいるわけではございません。まあ、他の市の話を聞いておりますとそれに近いような市もあるようですが、当市においてはそういうことはございません。
	完全に機能はしていないんですが、一部、いわゆるうちの市は係制をとってはございません。担当制という形で職員を配置させていただいております。例えば、1つの課の中でいくつか仕事がございますので、それぞれが忙しい時に応援体制をとる形でやらせていただいております。特に、今、私、総務部におりますが、例えば税務課なんかは、シーズンによって、2月、3月

	なんかは申告相談とかでかなり忙しい時でございます。その時に、固定資産や納税の職員が応援に回るとか、そういう形で職員を横というか、応援体制をさせていただいております。それでも、どうしても足りない時は、パートなんかを活用させていただくことになります。例えば、総務課は今年、国勢調査がございます。そうしますとどうしても、一時的に仕事が増えますので、パートを使う。それから先日、選挙がございました。その時には、当然、臨時のパートを使って仕事を進める。そういうことはやらせていただいております。
委員	よく理解できました。行政というのはどうしても、縦割りになっている傾向にありますけども、横の連絡もとりながら、仕事を消化しているのは非常に立派ですね。
委員	関係者の皆様方、大変な思いをされてここまで改善をいただいたと理解しています。
	この表を見て感じるのは、やはり交付税の減額がかなり大きな影響が出ていると思うんですね。3年間で12億余り減らされてしまって、平成20年度ですと6億で9%ぐらいの減額があり、非常に大変なことだったであつたろうと思います。そういう中で、実質公債費比率が下がってこないのは、どうかすると上向きになりつつあるというのは、なかなか大変なことなんだろうと思います。よろしくお願ひいたします。
	1つ質問、お伺いしたいのは、別表4にありますが、小規模保育所の統合再編ですが、児童数が30人未満の場合には保育所については統廃合を検討されるということですが、これは22年度も引き続きこの方針なんでしょうか。
市民部長	22年度以降もこの方針でございます。
委員	かなりの少子化の時代なんで、そういう意味では、保育所もどんどん少なくなるくるんだろうなと思いますが、そういう状況はやむを得ないと思いますが、度々この話は申し上げているんですが、保育所は延長保育もありますし、お母さん方の要望もかなりかなえられてきておりますが、やはりどうしてもお母さん方が困られているのは、病児保育ですね。
	こここのところ、おたふく風邪が流行っておりますが、元気なんだけどもまだ症状が治まらないんで、保育所には登園できないという、だけど一人にしておくわけにはいかないので、どうしても休暇をとる。就労を一時中断しなければならないわけですが、やはり、度々出てきておりますので、健康だけ登園できない。まだ感染状態にある子どもたちにどう対応していくかということは、子育て支援という観点からも非常に重要な気がという思いをいたしております。非常に厳しい折ですけども、方向性としてご検討いただければと思っております。
市民部長	病児、病後児保育につきましては、大変重たい問題でございます。そしてまた難しいものでございまして、我々としても本当にどういうふうにして対応できるか検討中でございますが、今、アソカナーサリーの方では、若干受

	<p>入れをしていただいておりますけれども、これからもその対応につきましては十分検討して参りたいと思っております。よろしくお願ひいたします。</p>
委員	<p>アソカナーサリーで行われているのは、病後児保育なんですね。感染状態は治まっているけども、まだ体力の回復が十分でありませんので、登園するのは、他の子ども達と生活するにはまだ体力が回復していないという、そういう子どもが対象になっているんですが。そういう人達は案外少ないんですね。子どもはいったん治ると体力の回復は早いんで、そういう意味でもナーサリーなんかもなかなかうまく、お母さん方にうまく利用されていないというのもあるのかもしれません。よろしくお願ひいたします。</p>
委員	<p>先ほどから市役所の話を聞いておりますと、大変ご苦労なさって、大変だなと。これからの政治の方でも、ますますやりにくいといえば、そうなるがかなという感じもいたします。</p>
	<p>事業仕分けというものがありましたりして、いろいろと県連の方からも予算の削減も聞いております。それから、別表4の寿養荘のあり方ですけども、廃止を含めてあり方を検討ということが書かれております。老人会は、寿養荘を中心にして、氷見の1万2,000人、60歳以上は1万2,000人ですか。老人会の1万2,000人が活動して、これからも元気で老人会をやっていこうということについて、ここに20年、21年に検討となっていますが、何とかこのまま持続できて、老人会も一生懸命やれるようにという思いであります。廃止を含めてと書かれていますと寂しい思いがしますので、ひとつよろしくお願いしたいと思います。</p>
市民部長	<p>寿養荘につきましても、建築からだいぶ年数も経っております。当初、このプランを策定する時には、だいぶ経過しておりますので、大規模修繕が必要になった時には、やはり廃止も含めた検討ということで考えておりますが、何とか今のところもっているということで、ご理解いただきたいと思っています。</p>
委員 会長	<p>はい。よろしくお願ひします。</p>
	<p>はい。どうもありがとうございました。予定の時間となりましたので、これで協議を終了したいと思います。これで本日の会議を終りますが、閉会に当たりまして、市長の方から一言お願ひいたします。</p>
市長	<p>貴重な時間をいただきまして、またご意見をたくさんいただきありがとうございます。この改革、大変厳しい改革でしたが何とか、大筋でプランを進めていくことができたのかなと思います。ただ、もう一山、大きな山、改革プランを進めて参りたいと思っています。ただ、あまり改革、改革と言うとつらくなってくるんですけども、平たく言えば、世の中の市民ニーズにできるだけ行政を合わせていくということから考えると、それはしごく合理的な考え方もあり、そういう観点で進めていきたいと考えております。特にこの地域主権へ舵が切られたということで、まあ自己責任も伴うわけでもありますが、市役所全体として市民の皆さんに笑顔で向き合う。そして、説明</p>

できる能力を持つ。それから施策を考えて実行に移す力がいる、そういう集団に変わっていかなければならないのかなと思っています。

当面、考えますと、先ほどから随分、話題になっていますが、人口減、それから人口減によって集落機能が、町内機能が非常に低下しているところが出てきました。福祉関係は、社協等が頑張っていただいて、相当地域力があると思っていますが、市としても、そういったことにしっかり目を向けて、安心して暮らしていける。どこかの街で 113 歳になっていたのに、10 年前から捕捉できなかったというあんな行政にはなりたくない。安心して暮らして、みんなが気配り目配りしていける行政でありたいと思っていますし、それから、コマツさん、日本ゼオンさん、頑張っていただいてまして、相当いい経済状況で、トップクラスはですね。一般的の企業は大変厳しいわけでありますけども、市の持ち味である食を生かして、全国ブランドに撃って出て行く、その中で雇用や産業を創り出していくということも大変大事なことだと思いますし、人づくりの面では、氷見を卒業して大学に行く、これも大事ですけど、氷見をやっぱり好きになって、氷見に愛着があるという人を育てていくということが人づくりの最も大きな観点じゃないかと。

行革をしながら、全市的な最も大きな課題に取り組んでいきたいと思ってありますので、集中改革プラン についても、皆様方のご支援、ご指導を賜りたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

会長

どうもありがとうございました。今日は委員の皆様方は、わりといいご意見といいますか、非常によくやったというような意見をいただいているわけですけども、市の職員の皆さんのが非常によく頑張っておられるというのは、市民にも浸透してきたかなという思いもしております。

いずれにしても、亡くなられて 30 年とか、子ども二人を放って死なせたとかいう、我々の常識をはるかに超えたことが進んでいるわけでございます。そういう意味では、地域と行政としっかり手を結びながら、そういったことのないような明るい社会づくりというものが必要だと思っています。地域もだんだん、市の職員がやれないもんだから、我々もやらんなんかなという気持ちが芽生えてきているのかなと思っております。特に地区社協なんか、そういう意味では非常に頑張っておられるなと思っております。そういういいムードでございますので、市長さんも時々、市内に出られて、そういった方々を励ましていただくとか、（市長：はい。）そういった機会を作っていて、いっしょになって地域づくりに、地域主権といいますか地域の知恵がその地域を元気にするわけでありますので、力を併せてやっていければと思っております。今日は委員の皆さんには長時間にわたり熱心に議論していただきありがとうございました。これをもって閉会といたします。どうもありがとうございました。